

なのに、なぜそれをやるのか。目的は2つですよ。

①人質の奪還。220名以上の人質が誘拐されて。

言っときますけど、これは捕虜じゃないですからね。誘拐されて未だ戻って来ない。彼らをどうしても、取り戻さなければならない。連れ出すためには、兵士たちが地上に入って行って、彼らを運び出さなければならないんです。

②自衛権の発動。これは防衛戦争なんです。

皆さん、もうすっかり忘れてますけど、10月7日にどんな事があったのか。

ある家のご主人（お父さん）を、身動きできないように椅子に後ろ手に縛り、お母さんから生まれたばかりの乳児を取り上げて、オープンに入れて最高温度で点火して、赤ちゃんがギャーっと泣いているところで、まず彼女をレイプ。夫の目の前で。そして射殺。そういうことが色んな動画で出て来ますよ。

イスラエルは自制してるけど、たまらんかったんでしょうね。

テレグラムというロシア製のSNSを見ると、そんなんがバンバン出て来る。

2400人入って来てこんなテロをやったハマスは、銃撃戦で一部イスラエルに殺されましたが、ほぼほぼ戦力温存の状態、根城／根拠地のガザに帰りました。

その時に200名以上を誘拐したんです。

ハマスの政治局のトップは「今回の作戦の名前は“アルアクサの洪水”だ。」

アルアクサは彼らが言うエルサレムの別名です。「アルアクサの洪水作戦は、これで最後だと思うな。2回目3回目4回目、必ずやる。」

これだけのことをやられて、これからも続けると言っているテロリスト集団に対して、自衛権を持っている独立主権国家が何もしないなんてこと、あり得ますか。

イスラエルは独立主権国家です。ハマスは国じゃないんです。テロ集団ですよ。

オウム真理教が一層重装備してるようなもんですよ。

オウム真理教が上九一色村（かみくいしきむら）から出て来て、200人以上を誘拐したり、1200人以上を殺したら黙ってますか。当然入りますよ。

これと同じ事がもし中国で起こったら、習近平は何をやると思いますか。

事前にピラを撒いたり、「そこは戦場になるから退いてください」とか、あの男、習近平がやると思いますか。

これと同じ事がもしモスクワで起こったら、プーチンはそのテロリスト集団に、どんな報復しますか。

アメリカだって911で2千数百人殺されて、20年がかりで首謀者を追いかけて、追い詰めて殺して、今でも追いかけている。

ほかの国はもっと酷いことをやってるんですけど、だれも何も言わない。

独立主権国家は自国の国民の生命を守る。それは国家に課せられている義務です。

ハマスがやったテロと、独立主権国家が自衛権を発動していることを同列に並べて、ハマスも悪いがイスラエルも悪いというのは、明らかにグロテスクな議論でおかしいんです。

おかしいんですけど、他のジャンルでは非常に聡明な意見を仰る経済評論家・平和

評論家・国際政治評論家・中東問題研究者たちが、そういうことを言っている。そんなんを浴びるように聞いていたら、「確かにイスラエルも悪いんちゃうか」となりますよ。

僕はもう、テレビでそういうニュースを見ない。見たら私の同居人が怒るからですけど、もう耐えられません。そんな偏ったものを見てるとおかしくなって、目の前の、本当に見なければならぬ現実が見えなくなってしまうんです。そんなの見ないで『ごうちゃんねる』を見てください。それと『いかりチャンネル』くらいですよ。あまりにもバランスを欠いたことがまかり通っている。

なぜこんな話を冒頭とするのか。

今日の**ダニエル書 6 章**には、反ユダヤ主義との戦いのひな型が出て来るんです。登場人物は 3 種類。

- ①ダレイオス王。ユダヤ人の出身であるダニエルを非常に重んじる。親ユダヤ。
- ②主人公のダニエル。1 章から 5 章まで見て来たように、終末預言をこんなにも詳しく語る旧約預言で、ダニエル書は飛び抜けています。別名『旧約の黙示録』。
- ③ダニエルを目の敵にする多くの政治家たち。反ユダヤのひな型。

ダニエルを巡って、彼を支持し応援し、何とか助けようとする人と、何とか彼の息の根を止めてやろうと思う人たち。親ユダヤと反ユダヤ。

この結論はどうなるのか。これは歴史で何回も行われて来たことなんですが、それをひな型のように語っている箇所でもあるんですね。

今日は結論に至る前に、全体をざっと考えます。

ダニエル書 6 章

1 ダレイオスは、全国に任地を持つ百二十人の太守を任命して国を治めさせるのがよいと思った。

ダレイオス、どんな人でしょう。「ダレイオスって誰いおす？」言おうと思ったけど、スベッタラ怖いので言わなかったんです。

前回**ダニエル書 5 章**で「メネ、メネ、テケル、ウ・パルシン」、人間の指が出て来て、バビロンが崩壊する当日にダニエルがいたという話をしました。

覚えてはりますか。「そんな大昔のこと！」みたいなね。ぜひまた見てください。

ダニエル書 5 章

30 その夜、カルデア人の王ベルシャツアルは殺された。

ベルシャツアルはバビロニア帝国最後の王です。

彼は誰に殺されたのか。なぜ殺されたのか。

バビロンという国は一夜で、メド・ペルシア連合軍に滅ぼされてしまいます。

バビロンの都に入り込んだメディア軍・ペルシア軍の統合軍の王がキュロス王です。

31 そして、メディア人ダレイオスが、およそ六十二歳でその国を受け継いだ。

バビロンを倒したのはキュロスなのに、なんでダレイオスが王になるん？
受け継いだ。ダレイオスはバビロンを倒してないんです。もらったんです。
倒したのはキュロス王。やがて出て来ます。またお話しします。

キュロスは当時非常に大きかったメディアと、メディアに比べたらそんなに大きくないペルシアの両国を束ねる王でした。なぜ束ねることができたのか。
キュロス王のお母さんはメディア王国の王女。お父さんはペルシア王国の王。
2つの王国のロイヤルファミリーの血を受け継いでいるので、どちらの王国にも、
どちらのロイヤルファミリーにも、息子なんですよ。
だから、2つを束ねることができたんです。

この時はまだメディアの力が強かったんです。
後でまた言いますが、キュロス王のお母さんはメディア王国の王女マンダネ。
彼女は父親との関係が非常に悪くて、ペルシアに出されてしまい、ペルシアの王家
に嫁ぎました。息子のキュロスは、メディアのことをあまり良く思っていないんです。
なので、やがてペルシアがメディアを滅ぼしますが、この時はメド・ペルシアの時
代なんです。

ダニエル書 6章

**1 ダレイオスは、全国に任地を持つ百二十人の太守を任命して国を治めさせるのが
よいと思った。**

ここは正確に読みたいと思います。
メド・ペルシアがバビロンを呑み込みましたが、この全国というのはメド・ペルシ
アを意味しません。これはメド・ペルシア帝国内のバビロン州限定です。
メド・ペルシアの大王、王の中の王はキュロス王です。
メド・ペルシア帝国のバビロン州を任されたのがダレイオス王で、言うならば部下
ですよ。

ダレイオス王は、キュロス王の母マンダネの兄です。
まだメディアが強いので、メディアにいくつか花を持たせておかないとバランス取
れない。ほんまは自分の手柄でバビロンをやっつけたんだけど、「ダレイオス様。
バビロンはあなたにお任せします」ということで、花持たせてるんですよ。
だから、全国に任地を持つ百二十人の太守を任命というのはバビロン州限定。
国を治めさせるの国はバビロン州のことです。

**2 彼はまた、彼らの上にダニエルを含む三人の大臣を置いた。これは、太守たちが
この三人に報告を行い、王が損害を被らないようにするためであった。**

トップがダレイオス。その下に3人の大臣。その1人はダニエル。その下に120人
の太守。ダレイオスはこのように官僚機構を作りました。
ところで、ペルシアの官僚機構は非常に緩やかで、基本、ペルシアが征服するまで
既にあった官僚組織をそのまま使うんです。

つまり、ペルシアがバビロンを治めても、バビロンの政治機構の中にペルシア人を入れることはしない。
バビロンを治めるのに最も良いのは、バビロンをよく知っているバビロン人だ。
だから、バビロンの政治をしていた人たちに、そのまま仕事を続行させるんですね。
ここの大臣や太守はほとんどカルデア人／バビロン人で、ペルシア人ではない。
非常に緩やかなんですね。

3 さて、このダニエルは、ほかの大臣や太守よりも際立って秀でていた。彼のうちにすぐれた霊が宿っていたからであった。そこで王は、彼を任命して全国を治めさせようと思った。

今までは3人が大臣なんですが、その中でダニエルの出来があまりにも良かったので、彼を総理大臣にしようと思った。つまり3人は対等だったのが、ダニエルが上司になって、残りの2人は部下になる。面白くない。
この2人の大臣はおそらくバビロン人です。しかし、ダニエルはユダヤ人。

それだけではなく、実はダニエルはずっと引退してたんですよ。
だけど、ベルシャツアルがああ宴会をした時、だれも「メネ、メネ、テケル、ウ・パルシン」を解き明かせなかったのが、王母が「解き明かしができるのはダニエルしかいない」ということで、既に引退していた80歳台のダニエルを引っ張り出したんですよ。

ダニエルはやって来て解き明かしをし、終わったら家に戻るんじゃなくて「おまえ、凄いじゃないか！」そしてそのまま、バビロン州の大臣になった。
つまり、ダニエルは後から来た人なんです。
今まで、カルデア人の自分たちがコツコツ頑張って現職でやってたら、急に彗星のごとく現れたおじいさん。しかもユダヤ人。対等なだけでも腹が立つのに、自分たちの上の総理大臣になる。その意向を持っているのがダレイオス。
ダレイオスがダニエルに特別なポジションを与える前に、ダニエルを片付けないと。そこで考えた。陰謀ですね。

5 そこでこの人たちは言った。「われわれはこのダニエルを訴えるための、いかなる口実も見つけれない。彼の神の律法のことで見つけるしかない。」

ダニエルは非の打ち所がない、非常に勤勉で有能で崇高な人格者だったんですね。だからケチのつけようがない。もし賄賂をもらってるとか不正があったなら、スキャンダルにして失脚させることができるでしょう。そんな人無いです。
そこで計画を立てます。

7 王よ。国中の大臣、長官、太守、顧問、総督はみな、王が一つの法令を制定し、断固たる禁令を出していただくことに同意しました。すなわち今から三十日間、王よ、いかなる神でも人にでも、あなた以外に祈願をする者は、だれでも獅子の穴に投げ込まれる、と。

これは嘘ですよ。123 人の家臣の中でトップはだれですか。ダニエルですよ。少なくとも、トップ 3 の一角はダニエルです。彼らは王に向かって「全員一致でみな」と言ってるけど、ダニエルは入ってない。ダニエルを除いているのに、これを聞くと、まるでダニエルも含めて同意した。あの賢いダニエルが同意したのなら、と当然王は思うでしょう。王に対して嘘をついた。これ自体が死罪ですよ。だけど、王は疑わなかった。

今から三十日間、王よ、いかなる神でも人にでも、あなた以外に祈願をする者は、だれでも獅子の穴に投げ込まれる。後で言いますが、これポイントです。バビロン時代の死刑は、燃える炉の中に投げ込むんですよ。シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴ。「7 倍熱くしろ！」言うて、放り込む人が焼け死んだという。

ここで獅子の穴に投げ込めと言ったのは、王に気を遣ってるんです。彼らはカルデア人／バビロン人ですが、王はメディア人。メディア人・ペルシア人はゾロアスター教です。ゾロアスター教は拝火教。メディア・ペルシアの宗教では、火は神聖なもの、聖いものなんです。なので、聖いものに汚（けが）れた罪人を焼かせるのは背信行為。アウトですよ。だから、獅子の穴に投げ込まれる。

ほんなら、獅子飼うてたんか？飼うてたんですよ。当時の王たちは獅子を飼うのが一種のステータス。今でもそうです。ライオンとトラが戦ったら、普通どっちが勝つと思いますか。西武ライオンズと阪神タイガースの話、してませんよ。今年、阪神強かった。阪神強い年って、ロクなこと起こらへんね。ライオンとトラが戦ったら、普通勝つのはトラですよ。トラの方が一回り大きい。同じ体重なら五分五分かもだけど、トラの方が平均で 100 キロ以上大きいんですね。

ところが、トラと同じ体格のライオンがいるんです。その名前が今パッと消えた。家に帰った頃出て来ますよ。頭の周りに毛があるだけじゃなく、肩の後ろの方までタテガミ。ものすごく巨大で見てくれがいい。イケメン。威風堂々のライオン。あまりにもすごいので、狩りまくられて絶滅してしまったんです。バカですよ、本当に。ライオンの中で、これだけが絶滅した。ところが、「もう、あのライオン見ることができない」とみんな思ってたら、なんと、モロッコの王様が飼うてたんです。アラブの王様が。どれほど俺は勇敢で、俺の部下は有能で、俺たちはどんなに高貴かを証明するために、ライオンを生け捕りにするのが一つのステータスだったんです。だから今でも、一部の王族の中にはライオンを飼うことがあるようですが、バビロンもそうだったんですね。

8 王よ、今、その禁令を制定し、変更されることのないようにその文書に署名し、取り消しのできないメディアとペルシアの法律としてください。

ここもペルシアの特徴です。独裁国家は「朕が法である。」

法律になんぼ書いてあっても、絶対者／権力者が「こうする！」言うたら関係ない。俺が法律。俺が憲法。しかし、ペルシアは王の上に法律がある。だから、王でもその法律に逆らえない。

すなわち今から三十日間、いかなる神でも人にでも、王以外に祈願をする者は、だれでも獅子の穴に投げ込まれるという法律を制定し、変更されることのないようにその文書に署名し、取り消しのできないメディアとペルシアの法律としてください。

ダレイオス王は全会一致と聞いているので、この段階では、ダニエルも賛成していると思ってるんです。「あのダニエルがうんと言ってるなら、よっぽどいいんだろう。それに、私はよそから来た王だ。バビロンの国民たちが私に礼拝を献げることで、その忠誠心をチェックできる。ええことじゃないか。」サインするんですね。

10 **ダニエルは、その文書に署名されたことを知って自分の家に帰った。その屋上の部屋はエルサレムの方角に窓が開いていた。彼は以前からしていたように、日に三度ひざまずき、自分の神の前に祈って感謝をささげていた。**

エルサレムの方角に窓が開いて、日に三度ひざまずき、自分の神の前に祈って感謝をささげていた。

どんな事があっても祈りをやめなかった。だけど、ダニエルが大きく用いられたのは、ただ祈っていたんじゃない、神の約束を握って祈っていたからなんです。神の約束を信じて祈っていたんですね。どんな約束でしょうか。

第一列王記 8 章

48 **捕らわれて行った敵国で、心のすべて、たましいのすべてをもって、あなたに立ち返り、あなたが彼らの先祖にお与えになった彼らの地、あなたがお選びになったこの都（エルサレム）、私が御名のために建てたこの宮に向かって、あなたに祈るなら、**

49 **あなたの御座が据えられた場所である天で、彼らの祈りと願いを聞き、彼らの訴えをかなえて（やってください）。**

これは、ソロモン王がエルサレム神殿／第一神殿を造って奉獻する時に、神に祈った長い祈りの一部です。

なぜダニエルはエルサレムの方角に窓を開けて、日に三度ひざまずき、自分の神に祈っていたのか。この約束なんです。

これはだれのための約束か。捕らわれて、敵に囲まれているユダヤ人のため。

「私は捕囚になってバビロンに連れて行かれ、バビロンが倒れてペルシアになり、私の周りには大臣をはじめ敵ばかり。120人の太守たちも私を目の敵にして、30日間祈ってはならないという禁止事項を投げつけられています。私は望んでこのポジションに就いているわけではないけれど、神よ、私は敵国でこのように責められています。」

ダニエルは、この約束を何回も読み返したんじゃないでしょうか。まさに自分のための約束。自分にピッタリ当てはまる条件。国を失って世界に散らされて、そこで困り果てているユダヤ人が、エルサレムの方に向かって祈ったら、天で聞いて、その願いをかなえてくださる。どうやって神に近づくかを、彼は自己流で考えたのではなく、神の約束に則って祈ってるんです。

日に三度ひざまずき、自分の神の前に祈って感謝をささげていた。

「助けてください。助けてください」だけでなく、祈って、感謝だったことを思い返しながらか、創造主である神、イスラエルの神、アブラハム・イサク・ヤコブの神を礼拝してたんですね。感謝している時、何とも言えない勇気が湧いて来るんです。

25年くらい前、ある外交評論家の仲立ちで、「本書いてみいひんか」という話があったんです。「でも、高原君が自由に書いていい本じゃないんだ。」日本でもお馴染みの有名なラビで、マーヴィン・トケイヤーという方がいます。たくさん本を書きましたが、『河豚(ふぐ)計画』という本があって、「これがちょっと難しいので、日本人に分かるように少し噛み砕いて、彼との共著ということで書いてくれないか。」

河豚計画とはどんな計画か。戦前、日本はどうしてもアメリカと戦争したくなかった。でも、中国権益は手放したくなかった。ヨーロッパでは、ヒトラーたちがユダヤ人を迫害している。もし日本政府が満州にユダヤ人国家を造ったら、ヨーロッパのユダヤ人たちは、ホロコーストから逃れて生き残ることができる。そうしたら、満州のユダヤ人国家の、アメリカ政府を動かすことができる大きな力を持ったユダヤ人が、「日米開戦やめときましようよ。だって、日本は我々ユダヤ人に良いことをしてくれてるんですから。」

フグはちゃんと調理したらご馳走だけど、下手にやったら毒で死ぬじゃないですか。ユダヤ問題は下手にやったら死ぬぞ。だけど、日米開戦避けられるかもしれない。これが河豚計画です。

ユダヤ人には、戦争を決意しているアメリカ政府を動かす力なんか無いんです。だけど当時の日本では、ユダヤ陰謀論の本がベストセラーで、「アメリカ政治はユダヤ人たちが動かしてる！」政府のトップまでもがそれを信じてるから、そんな与太話に騙されて、しくじって行きました。

それを書いてほしいと。「僕はそれに同意できへんし、ユダヤ人と日本人の関係を絡めた本を書くということでどうですか。」

それで行こうとなつて、ある月刊誌に1年半連載したんですよ。

『大局のために 日本人とユダヤ人』というタイトルで、東京の護国寺にある超老舗の出版社から出そうと。『少年マガジン』のK談社。「由緒ある出版社から出るのもいいなあ。でも、著名な方に乗っかって共著みたいなのはけったくそ悪い」というのはあったけど、その外交評論家の方が「とにかく書けよ」と。

今でも覚えてますが、当時はワープロじゃなくて原稿用紙。1回目自信満々で出したら、1枚目から25枚目まで添削で真っ赤っか。そもそも句読点の付け方からやり直して来いと。30代になって国語の勉強かと思いましたが、やりましたよ。そしていよいよ！となった時、編集者との間に、ものすごい対立が起こったんです。

それは“ユダヤ人とはだれか”という問題。

彼が言うには、「ユダヤ人とは血統じゃなくて宗教だ。ユダヤ教徒がユダヤ人だ。だから、ユダヤ教徒でなくなった瞬間に、ユダヤ人ではなくなる。」

私は、ユダヤ人であり、かつイエス・キリストを信じる人たちをユダヤ人の位置づけで書くんですが、この担当者は「これはユダヤ人じゃない。キリスト教徒。」

「初代教会のクリスチャンは全員ユダヤ人なんですよ。彼らは自分たちがユダヤ人じゃないとは思ってない。周りのユダヤ人たちも、ユダヤ人という大きなカテゴリーの中で、パリサイ派・サドカイ派・熱心党员・ヘロデ党・エッセネ派・ナザレ人（ナザレ人とはイエスを信じるユダヤ人です）、ユダヤ人の大きな共同体の中に入ってるんですよ。」

言うんですけどダメなんです。でも、そこを譲ったら本を出す意味がない。そこから塩漬けって言うの？「ここ譲ってください。」「譲れません。」「譲ってください。」「譲れません。」半年経ち、1年経ち、1年半経ち。そのうち段々私の精神が蝕まれて、「おまえんところでは二度と出していらんわ！」ファックスで送ったんです。二度とって、声掛けてもろてんのにな。

その時、心が通じ合わない編集者と一生、一緒に仕事したくないと思った。私が書きたいことに一々横やり入れるなど。それやったら、もっと普通の人に頼めやということで、私の中で傷になってるんです。その後もマガジンは読みましたけどね。

先月、東京で講演会しました。私が尊敬する行動心理分析学者の方が来られて、出版社の人を一人連れて来たんです。「高原さん。あなたのYouTube、たくさん見ておられますよ。」するとその方が「本出しませんか。もう自由に書いてください。」その瞬間、護国寺の件を思い出しました。あの時、ビッグネームと一緒にいたらだいぶ売れたかもしれないけど、他人のふんどしで相撲を取るようなことでなく、信仰者として言いたいことがちゃんと書ける。そんな心が通じ合うような人と仕事ができるようにしてくださるのは、本当に祈りが聞かれたなあ。

あの時の悔しい、辛い、苦々しい思い…。神は全部聞いていてくださったんだと分かった時、もう何とも言えない喜びです。今7割くらい喜びがある。実は1回目の締め切りが明日なんです。今むちゃくちゃ忙しいんですよ。それで、3割くらい喜びが減ってるんですね。引き受けすぎ。今日は早く終わらしてもらおうかなと。一刻でも早く家に帰って原稿書きたいんですよ。

さて、この時代は、「エルサレムに向かって祈れば神が天で聞く」と書いてあるんですが、今はエルサレムは関係ありません。

今はどんな罪人も、イエス・キリストの御名によって「神よ、私を助けてください。」「私を救ってください。」「聖書の話を知っているけどよく分からない。もっと理解できますように。そして、聖書が言っていると通りの理解で、イエスと出会うことができるように助けてください」と祈るなら、神は天でそれを聞いて叶えてくださいます。ぜひそれを祈ってください。

11 **すると、この者たちが押しかけて来て、ダニエルが神に祈り求め、哀願しているのを見つけた。**

見つけた。ダニエルが祈るのを張り込ませて見張ってたんです。日に3度祈るのをちゃんとチェックして、動かぬ証拠として証言者を確保した。

13 **そこで、彼らは王に告げた。「王よ。ユダからの捕虜の一人ダニエルは、あなたと、ご署名になった禁令を無視して、日に三度、自分勝手な祈願をしております。」**

「こいつは撤回不能な禁令を、初日に破ってるんですよ。」

14 **このことを聞いて王は非常に憂い、ダニエルを救おうと気遣った。そして彼を助け出そうと、日没まで手を尽くした。**

なぜ日没までなんでしょう。日没に処刑が始まるからです。処刑執行のギリギリまで王自らが奔走して、何とかダニエルを助け出そうと努力したんですね。

15 **そのとき、あの者たちが王のもとに押しかけて来て、王に言った。「王よ。王が制定したいかなる禁令や法令も、決して変更されることはないということが、メディアとペルシアの法律であることをご承知ください。」**

これを聞いた時、王は罨に掛かったことが分かったんです。王自身が手を縛られている状態ですよ。「あ、ここに持って行くために、こいつらはそう言ったのか。」事の顛末を聞くと、どうもダニエルはその中にいなかったということが分かるんですが、何しろ撤回不能の状況なので選択の余地がない。

16 **それで王は命令を出し、ダニエルは連れて来られて、獅子の穴に投げ込まれた。王はダニエルに話しかけて言った。「おまえがいつも仕えている神が、おまえをお救いになるように。」**

これを見ると、ダレイオス王は親ユダヤですよ。「ああ、気の毒なことになってしまった。おまえがいつも仕えている神が、おまえをお救いになるように。」

「よくも禁令を破りやがったな！」という思いは微塵もなく、むしろ憐れんでいる。

獅子の穴に投げ込まれた。まずダニエルを縛ります。そして穴に吊り降ろす。

綱の上の結び目に石の蓋を置いて封印し、だれも開けられないようにした。
穴の底には飢えたライオンがたくさんいて、食われてしまうということなんですね。

18 こうして王は宮殿に帰り、一晩中断食をした。側女も召し寄せず、眠ることもしなかった。

一晩中断食をした。これはすごい。ダレイオス王にとって、ダニエルがいかに大切な人物だったか分かりますよね。食事がのどを通らないんです。部下のためにここまで心を痛める王様、滅多にいないんじゃないですか。それだけダニエルは無くてはならない人材だったんですね。

側女も召し寄せず、眠ることもしなかった。
王は毎晩のように大パーティーを開いて、その後寝るんですが、それを一切やめて、まるで近しい人が亡くなって喪に服しているかのような態度で、一晩中断食をした。

19 王は夜明けに日が輝き出すとすぐ、獅子の穴へ急いで行った。

20 その穴に近づくと、王はダニエルに悲痛な声で呼びかけ、こうダニエルに言った。「生ける神のしもべダニエルよ。おまえがいつも仕えている神は、おまえを獅子から救うことができたか。」

21 するとダニエルは王に語った。「王よ、永遠に生きられますように。」

22 私の神が御使いを送り、獅子の口をふさいでくださったので、獅子は私に何の危害も加えませんでした。それは、神の前に私が潔白であることが認められたからです。王よ、あなたに対しても、私は何も悪いことはしていません。」

私の神が御使いを送り、獅子の口をふさいでくださったので、獅子は私に何の危害も加えませんでした。

このことばは新約聖書に出て来るんです。

ヘブル人への手紙の 11 章に、彼らは信仰によって…獅子の口をふさぎ…」

ダニエルのことです。新約聖書でも信仰の勇者列伝の中に、この時のことが記録されている。「神がそのようにしてくださったので、私は危害を加えられていません。王よ、私はあなたに何も悪いことをしていません。」

23 王は大いに喜び、ダニエルをその穴から引き上げるように命じた。ダニエルは穴から引き上げられたが、彼に何の傷も認められなかった。彼が神に信頼していたからである。

王は大いに喜び、ダニエルをその穴から引き上げるように命じた。
ここで問題なんですね。悪い法律とはいえ、ルールを破ったことは間違いないんですよ。30日間だれにも忤んたらあかんと言っているのに、ダニエルはイスラエルの神に向かって祈願をした。でも、穴から引き上げて終わってる。悪法でも法です。あの刑罰はどうなってるんですか。これね、神様の摂理が働いてるんですよ。

7 あなた以外に祈願をする者は、だれでも獅子の穴に投げ込まれる。

「だれでも獅子に食い殺されなければならない」と書いてあったら、食べられなければならないんですよ。でも、**投げ込まれる**。投げ込んだらフィニッシュ。投げ込むというところまでが法律なので、投げ込まれて危害を被らず、無傷であっても、罰を受けなかったことにはならないんです。

なぜ「獅子に食い殺される」というところまで書かなかったんでしょうか。投げ込んだら食い殺されるのが当たり前だからですよ。ところが、食い殺されなかった。ここに神の摂理が働いています。だから、引き上げて、「おまえは罰を受けた。何の咎めも受けない。おしまい！」と宣言することができたんですね。

ダレイオス王はユダヤ人を祝福する人です。彼の身にどんなことがあったでしょう。**26 私はここに命じる。私の支配する国においてはどこでも、ダニエルの神の前に震えおののけ。この方こそ生ける神、永遠におられる方、その国は滅びることなく、その主権はいつまでも続く。**

ダニエルを通して、生ける神を信じるようになったんですね。

「いや、彼は多神教だから、たくさん信じている神の一つになったに過ぎない」と言う人もいます。それは分からない。でも、少なくとも「この方こそ。」バビロンには色んな神々がいるけど、この方こそは生ける神、永遠におられる方。

なぜそう言えたのか。この方こそ生ける神、永遠におられる方と信じているダニエルと近かったからです。自分と親しいユダヤ人を通して、その信仰から良いものを受け取ることができたんです。

ユダヤ人を祝福することによって、彼の信仰的な目覚め、変革がありますね。

その国（神の国）は滅びることなく、その主権はいつまでも続く。

これから4つの帝国が出て来るけど、最後に、人手によらずに切り出された石がその4つの国を全部滅ぼして、それから神の国が永遠に続く。

このことを、ダニエルは**2章**の4つの像の預言で話していますね。

ダニエルを通してダレイオス王は、その国／メシア的王国／千年王国がやがて来る、ということを知っているんです。

自分はメド・ペルシア帝国のバビロン州の王だが、永遠に続く国ではない。

だが、永遠に続く国／神の国が来る。つまり、終末について知見を得ているんです。これは、ダニエルを祝福したことによります。

27 この方は人を救い、助け出し、天においても、地においても、しるしと奇跡を行われる。実に、獅子の手からダニエルを救い出された。

この方は人を救う神なのだ、ということを知えられた。

28 このダニエルは、ダレイオスの治世とペルシア人キュロスの治世に栄えた。

ペルシアはダレイオスとキュロスの時代に全盛期を迎えます。

中東世界は長らくアッシリアが支配しましたが、バビロンに滅ぼされ、エジプト・リディア・メディア・バビロンの4つに分かれました。そして、ダレイオスとキュロスの時代、それらが全部統合されます。つまり全盛期。ユダヤ人を祝福する者は祝福されるということが、世界史的にも立証されたんです。

では、逆のケースを見ましょう。「こんな法令違反するダニエルは、獅子の穴に投げ込め」と言った反ユダヤの人たちはどうなったか。

24 王が命じたので、ダニエルを中傷した者たちが連れて来られて、その妻子とともに獅子の穴に投げ込まれた。彼らが穴の底に達しないうちに、獅子は彼らをわがものにして、その骨をことごとくかみ砕いてしまった。

ある人は「ダニエルが食べられへんかったのは、獅子が満腹やったからや。」
違うわ。飢えてたんですよ。バリバリバリって。
その妻子とともに。ペルシアの刑法では、だれかが失敗したら家族全員が殺られるんです。なのに、ダニエルは1人でしか下ろされていない。それは、彼が独身で、おそらく宦官というか去勢されていて、敵地で天涯孤独だったから。
でも、彼らは妻子と共に、家族全員が獅子の穴の中で食べられてしまった。

反ユダヤ主義の者は呪われる。どのように呪われるのか。呪ったようにのろわれる。かつてエジプトの王ファラオは、「イスラエル人が男の子を産んだら、その子を Nile 川に沈めて溺死させよ」という命令を出しました。
ユダヤ人を溺死で全滅させようとしたエジプト人は最後、紅海で溺死します。

かつてハマンという男は、高さ 50 キュピトの柱を立て、ユダヤ人モルデカイを吊るして殺す計画を立てましたが、大逆転で、自分がその柱に掛かって殺されました。ここでは、ダニエルをライオンの穴の中に入れて殺すと決めた者たちが、そのようにされたんです。

ヒトラーはナチス・ドイツを率いて、ユダヤ人 600 万人を大虐殺。反ユダヤ主義。彼らは戦争に負けたけど、負けただけではなく、他のどの国も受けなかった仕打ちを受けたんですね。国家を東西ドイツで分けられてしまった。
東ドイツの国民は共産主義の牢獄の中に入ります。東ドイツそのものがゲットーでした。冷戦時代、1つの民族が同じ民族同士で銃を向け合ってるんですよ。
恐ろしいことですね。

ユダヤ人を呪う者は呪ったようにのろわれる。ユダヤ人にしたように自分に返って来る。したようにされる。
ユダヤ人を祝福する者は祝福され、ユダヤ人を呪う者はのろわれる。
これはアブラハム契約ですが、今も有効なんです。

10月7日のテロ戦争のことから、今、世界的に反ユダヤ主義が満ち満ちています。分けて考えたいのは、ユダヤ人の中にも悪いヤツはおりますよ。

彼らを、悪い事をしたがゆえに悪いと言うのは反ユダヤ主義ではありません。ユダヤ人だから悪い。ユダヤ人だから悪意を持って見る。これは反ユダヤ主義です。ほかの国がした時は全然責めないけど、ユダヤ人の時だけ目の敵にする。今世界中に広まっているのは反ユダヤ主義です。

日本も気をつけないと、その流れに引っ張られて行くんです。今の外務大臣は上川さんで岸田派。宏池会（こうちかい）ですよ。彼女は第二次安倍内閣以降ずっと、そして菅内閣でも法務大臣でした。ところが、岸田さんは何を思ったのか、慣れている法務大臣ではなく、外務大臣にしたんです。財務省・外務省・経済産業省の3つは脚光が当たる省庁ですよ。だから、女性閣僚の上川さんを外務大臣にした。

法務大臣時代の上川さんは凄いです。『安倍晋三回顧録』（これ中々面白いです）を読むと、日本では死刑執行の時に署名が必要です。刑法 175 条に「死刑執行は法務大臣の命令による」と書いてある。だから、裁判所で死刑判決が出て、署名がない限り執行はできません。歴代の法務大臣はずっと自民党ですが、「私は真宗大谷派だからやりません」みたいなことでサインしない。それで、三権分立が機能しないんです。独立している裁判所の審理の結果、最高裁まで行って死刑になったとしても、裁判所の判定を事実上骨抜きにできるのが、法務大臣の署名拒否なんですよ。

だけど上川さん、例えばオウム真理教の死刑囚 13 人の死刑にサインしたけど、その時、安倍さんにひと言も言わなかった。大抵の法務大臣は「これサインしようと思うんですけど…」とお伺いを立てに来て、「総理もそう言った」と心理的負担を軽くするんですよ。上川さんは、「私の仕事は法務大臣の仕事を全うすることです」と誓って、この仕事をした。「伺いも立てずに。この女は肝が据わっている」と書いてありました。だから、そのまま法務大臣でいいじゃないですか。

私は土曜日から 2 週間アメリカに行きますが、通路側の席が取れないんじゃないかばかり心配してます。外務大臣は大変ですよ。外務大臣は地球を何周も何周も回る。上川さん、もうええ歳でしょ。

そして今回、イスラエルが地上戦を始めると言った時に、何を思ったか、パレスチナに 1000 万ドルの支援をしようと言ったじゃないですか。いよいよ地上戦が始まったら、つい先日、6500 万ドルの追加支援を決めた。合計 7500 万ドルですよ。

その支援は国連を通して、UNRWA/パレスチナ難民事業団に行くんです。国連に無料で提供されているサラダ油や小麦粉・塩・砂糖などは、ガザのスーパーマーケットで高額で売ってます。UNRWA に無償援助で与えられた物をハマスが高い値段で売って、利益を得てるんですよ。ガザの不動産税の 17% はハマスに入ってきて来ます。ガザには億万長者が 600 人以上います。ハマスです。

日本の支援は彼らの懐に、2割3割でなく8割9割入るという話もある。
なので、EUもアメリカも、パレスチナ支援をストップしたんです。
ストップしている時に、最初に1000万ドル、追加で6500万ドル出している。
外務省であの方にアドバイスする人、いないんですか。
私に1本電話くれたら絶対止めます。私なりに今、何とか止められへんかなと色々
知恵を絞ってます。世界の笑いもんですよ。悪気なくてふと気がついたら、テロの
方を支援する形になるんですよ。

反ユダヤ主義は、究極的には神に敵対する思想になるんですよ。
ユダヤ人絶滅が成功したら、神の人類救済プランがストップするからです。
神はユダヤ人を、人類を祝福するパイプとして選びました。
そのユダヤ人が絶滅してしまったら、神の人類救済救済プランは実現しません。
ユダヤ民族が民族的単位でイエスをメシアと信じる時、その3日後にイエスは地上
再臨すると書かれています。ユダヤ人が全滅したら、イエスの地上再臨はない。

やがて艱難時代に入った時、日本人はユダヤ人の世話になるんです。
144000人のユダヤ人伝道者の何人かが日本に来て、携拳の後の日本人は、彼らか
ら御国の福音を聞くんですよ。

ですから、日本国家の将来のことを思っても、反ユダヤ主義はまずい。
イスラエルを祝福する者は祝福され、イスラエルを呪う者はのろわれる。
イスラエルの中にも悪い事をする奴はおるから、そのことについては言っても良い。
しかし、基本のスタンスとして、“彼らは神が異邦人を祝福するために選んだ民”
ということ覚えておくことが必要だと思います。

次回から7章です。6章までは歴史。7章からいよいよ預言が始まります。
どうぞ期待してご参加下さい。ご清聴ありがとうございました。

☆*: .. 0 ..:*☆ ☆*: .. 0 ..:*☆ ☆*: .. 0 ..:*☆ ☆*: .. 0 ..:*☆ ☆*: .. 0 ..:*☆

引用文献；新日本聖書刊行会『聖書 新改訳 2017』いのちのことば社,2017